



ローマ人への手紙1章と15-16章

ローマ 1:1-15 / 15:14-16:27 2015.2.18

御霊.				御子.			
16:17-20 22.1	15:30-33 21.1	15:18-21 20.2	15:14-17 20.1	1:6-7 1.2	1:1-5 1.1		
16:21-23 22.2	16:1-16 21.2	15:25-29 20.4	15:22-24 20.3	1:13-15 1.4	1:8-12 1.3		

(神の子として) 召された

↑ 1.1
パウロの使徒 務め

← (愛) (信仰) →

1.2 20.2 20.1

ローマの聖徒の愛 聖霊の働き 祭司の務め

平和と神の恵み 忠実

↓ 御霊の働き

(肉の行ない)

* 15:14 善悪, 16:17 分裂, 16:18 自由欲, 15:32 善い, 15:33.16:20 平和...

→ カサテヤ 5:16-26 肉の行ない vs 御霊の働き

ローマ人への手紙1章の出だしのところと15章の14節からの終わりのところですね。ただの挨拶のような感じもするのですけれども、全体のテーマと一致している大切な導入になっているということです。

「信仰の従順にすべての国々の人々を導くために、その福音です」という手紙なのですけれど、1章1節から15節までのところを分析したものと、15章14節からのところを分析したものとを比べてみると、「あれ、似ているところがある。でも、どこが違うのだろうか。」ということがあります。大きく神の子、御子についてという福音なのですけれども、御子が私たちを子どもとしてくださるということが福音ですね。その中で特に、リーダーとして、使徒として召された。特別に最初の子どもとして召されたパウロの働き。それと、その子がキリストの子どもたちを集める。そのキリストによって召された人々という愛されている人々を集めるという働き。そのパウロの務めとローマの人たち、すべての国々の中のひとつですね。そのローマにいる兄弟たちの愛というものが、神の子として召されるということで、導入が1章のところで書かれている。

ローマ人への手紙全体のテーマが、信じること、神の子とされるということと、神の子にされた者が神の愛で満たされることという「信仰と愛」というのがテーマになっていますけれど、その締めのところですね。15章14節のところからは、御霊の働きが強調されているようです。パウロの務め、祭司の務めの働きが与えられているというところから始まりますけれども、ここは、御霊の働きが強調されているのだよということは、

キーワードで見ても御霊によってということは、聖霊の力によってという御霊の別の言い方のような感じです。知恵に満たされると。知恵と御霊というのは、使徒たちに与えられた祝福の言い方になっていますけれども、「御霊の愛によってお願いします」という言い方があったりしますので、聖霊の働きということが後半のまとめのところでは、15章14節からのところに共通しているところでしょうということです。その証拠という意味では、ガラテヤ5章16節からのところに、肉の行いの結ぶ実はこういうものですよというリストがありますね。それに対して御霊の実はこれです。愛、喜び…というリストは皆さんよく知っていると思いますけれど、そこに出てくるキーワードが、この15章からのところにも出ています。出だしのところで、「兄弟たちよ、あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ…」という「善意にあふれ」というところで、「ああ、そうだな」と、善意というものが御霊の実にありました。16章の兄弟たちということで今度は、「分裂とつまづきを警戒してください。自分の欲に仕えている者たちに気をつけなさい」というようなところを見ると、分裂という肉の行いということでした。自分の欲。それと、「喜びをもってあなたがたのところに行けるように、平和の神が、平和の神が、」というような言い方もありますので、ここは御霊の力のことを話しているのだなということがわかると思います。

使徒たちに与えられた最初のしるしと不思議をなす力。「キリストのことばと行いによってしるしと不思議をなす力」ということ。「さらにまた」と書いてありますが、これは、御霊が与えられた、特別にその使命が与えられたということを表すしるしと不思議の力だったということは、使徒行伝からもわかります。最初の召されたところ、神の子として召されたというときに、パウロの務めとそれに応答するローマの聖徒たちの愛ということがありました。

15章14節から。この表を見ている人は、20:1とか21:1、1:1とか1:2と書いてあるところは、新しく分けた章だての1章の1段落目というような意味です。20章の1段落目というような意味ですけれども、書く章節は、上の表を見るとわかります。20:1、20:2と書いてあるところと、21:1、22:1と書いてあるところ、両方ともパウロについて言っているところと、パウロが対象にしている人たちということに対して言っているところというふうに分けることもできると思います。

20:1と22のほうは、特にパウロの働きを忠実に出来るように、御霊の働きによってその働きがなされるようにということが、召された務めが全うできるようにということを求めています。

21:1と22:1は、あなたがたがパウロに信頼するように、リーダーに信頼するように、そして、中で分裂しないようにということですから、これが上下関係の愛の話と、お互い関係の愛の話ということで、シャロームの関係が築かれていきますよということをお話していると思いますので、最初の導入のところのパウロの務め、そして、ローマの聖徒たちの愛ということが、この最後の段落で、また繰り返言われて、召された意味を御霊の働きによってなしているということがわかるような構成になっていると思います。